第118期 東京奄美会総会·芸能祭

他美の香にくつろぎ求め きゅりあんへ





西田あい Nishida Ai

城 南海

Kizuki Minami



ずままどか



















久永さとみ



奄美会女性部



えぐさゆうこ



日時:2016年10月30日(日)

12:00開場 第一部〈総 会〉 12:30 開会

第二部〈芸能祭〉 13:30 開演

会場: きゆりあん (品川区立区民会館・8階大ホール)

会費:3000円(全席指定) ※チケットに関するお問合せ先:各郷友会担当者まで ※チケットは売り切れになることがありますのでご了承

主催:東京奄美会



第118期 東京奄美会 総会・芸能祭 出演者プロフィール

城 南海

奄美大島出身。2006年鹿児島市内でシマ唄のパフォーマンス中にその歌唱力を見出され、2009年1月に『夜空ノムコウ』を手がけた川村結花作詞作曲のシングル『アイツムギ』でデビュー。代表曲は、NHKみんなのうた『あさなゆうな』、『夢待列車』をはじめ、NHKドラマ「八日目の蝉」の主題歌『童神〜私の宝物〜』、NHKBSプレミアム時代劇「薄桜記」の主題歌『Silence』、一青窈作詞、武部聡志作曲・プロデュースのシングル『兆し』など。テレビ番組出演・テレビ主題歌も多い。「カラオケバトル」では連続8冠の偉業達成。一躍脚光を浴びる。

西田あい

鹿児島県姶良市出身。趣味芸術的散歩 特技 細かい作業 資格英検2級・焼酎アドバイザー 他。2010年に日本クラウンよりデビューシングル『ゆれて遠花火』でデビューし、平成22年度日本クラウンヒット賞新人賞を受賞。昭和歌謡をこよなく愛し、持ち前のキャラクターとふるさと訛りの軽快トークで、2012年から、ラジオパーソナリティとして毎週3時間生放送を担当。2014年から半年間、BSジャパン「徳光和夫の名曲にっぽん」でMCを担当し、バラエティー番組に出演するなど、歌手活動の他にも幅広いジャンルで活躍。

あずままどか

徳之島町出身。2002年、河村隆一全国ツアー「真昼の月と真夜中の太陽」でオープニングアクトを務めデビュー。アコギ1本で挑む姿が好評を得て、NHK「みんなのうた」では、歌の他、作詞と原画を手がけた楽曲『リセット』がオンエアーされその実力を認められる。その後、シンガーソングライターとして数々の作品をリリースしつつ、他アーティストへの楽曲・詞の提供、舞台の音楽制作や出演、ラジオのDJなども行う。最近ではコーラス等で中村一義のコンサートサポートやアルバム、MVにも参加。

碇 浩二

奄美市出身。幼少より日本舞踊琉球舞踊の手ほどきを受け昭和60年上京。受賞: 琉球古典芸能コンクール最高賞受賞。テレビ:NHK大河ドラマ「炎立つ」「元禄 繚」「真珠夫人」「失楽園」等。舞台:国立劇場、国立劇場おきなわ、明治座等、ア メリカ、キューバ、中国等国内外で活躍。主催:玉城流七、七扇会東京支部 碇 浩二琉舞研究所。

池田哲也

瀬戸内町出身。幼少時代父親より島唄の手ほどきを受け、上京後は田原俊成氏に師事。指示昭和48年、59年、舞踊家西崎みどり氏と新橋演舞場に出演、昭和59年から平成5年 朝崎郁恵氏と国立劇場共演。平成2年朝崎郁恵氏とニューョークカーネギーホール100周年記念イベントで共演。東京奄美サンシン会に出演、現在奄美民謡の普及に努めています。

伊是名の会

伝統的な琉球舞踊をベースに、現代人が共感する創作舞踊と斬新な舞台で多くの観客を魅了しています。2001年よりアメリカ・カリフォルニア公演を皮切りに、フィンランド、オーストリア、ブルガリア、ルーマニアのヨーロッパや台湾・インドネシアの東南アジアを含む9か国13都市で公演。 今年10月はボスニアヘルツェゴビナとセルビアの国立劇場で公演。国内外で高い評価を受けている舞踊集団。

きゅらなーちゃ

池田麗奈(うみ)奄美2世。 小幡美紀(そら)奄美3世

うみとそらが東京で出会い、奄美に古くから伝わるシマ唄(民謡)を歌う為に生まれたユニットです。第2回 奄美島うたのど自慢大会 in 東京、シマ唄の部 大賞受賞。第30~34回奄美民謡大賞入賞。第2回奄美フェスタ出演。東京奄美会芸能祭 出演。NHK「にっぽんの歌、ふるさとの歌」TV出演。第5回 奄美島うたのと自慢大会 in 東京、シマ唄の部第3位入賞。

竿田美也子

沖永良部二世。3歳からクラシックピアノを始める。小学4年生から6年生まで少女合唱団のアルトパートの一員として歌の基礎を学ぶ。高校卒業 以降、しばらく音楽から離れていたが「本当に自分がやりた こと=音楽」と気づき、思い立って初めてオリジナル曲を作り始める。2014年沖永良部島、神戸でファンクラブが結成され、これをきっかけに本格的に音楽活動をスタート。何気ない日常生活を独自の視点で紡ぎ奏でる曲は元気になる、深く引き込まれ心が癒されると大好評。今までにCDアルバム3枚、シングル1枚をリリース。米国テンブル大学教養学部卒業、日本語と英語を操るバイリンガル。

寿里

与論島出身。趣味:テニス・カラオケ・野外フェス。特技:日本舞踊。高校生の頃に、友人とボーカルダンスチームを結成し、自主的にイベントを運営、ライブ活動を行う。高校卒業後、大阪の女子大学に進学し、ソロでライブ活動を行う。大学卒業を機に上京。新栄プロダクションに所属し、歌手の修行を積み、『辺戸岬』と、カップリング曲『わたしはうたう』で2012年5月23日に日本コロムビアよりデビュー。将来の夢は「与論の星」になること。 2012年2月14日「与論島観光大使」に任命される。

すもも

指宿桃子(奄美市出身)。武蔵野音楽大学器楽学科卒業(ピアノ専攻)。現在、同大学別科声楽コース在籍。 幼少期から講師である母の影響でピアノを始める。これまでに故・阿世知幸雄氏に三味線、安田宝英氏に鳥唄と三味線を師事。2010年、同門の伊成実と島唄ユニットすももを結成。島内のイベントや施設慰問も行う。島唄・民舞など多くの大会に出場し受賞多数。

伊成美(徳之島町出身)。小学校5年生より島唄を安田宝英に師事。徳之島では、子供に三味線指導し、様々なイベント活動に出演。平成23年進学の為上京。島唄・民舞など多くの大会に出場し受賞多数

瀬戸内三郎

瀬戸内町出身。デビュー:昭和56年。好きな言葉:努力。趣味:ゴルフ。レコード会社:日本クラウン。昭和62年『奄美慕情』発売。平成6年『夫婦流行歌』発売、平成12年『鹿児島の男』発売、昭和56年から平成10年まで奄美大島にてチャリティショー開催、平成10年奄美観光大使に任命される、道頓堀の朝日座、中座、新歌舞伎座などいろいろなステージなど出現。現在に至る

久永さとみ

奄美大島出身。奄美新民謡の歌手をしていた母、久永美智子の影響もあり幼い頃からお祭りやカラオケ大会で歌う。高校卒業後上京してからも歌を続け、奄美へ帰省してからは母に新民謡を教わり全曲久永美智子の作曲の「奄美物語」と言うCDアルバムや『不思議な島・緑色の風』のCDシングルを発表。平成23年には『奄美物語IV』というCDのアルバムを発表。多くの奄美郷友会懇親会にも出演し活躍。

奄美会女性部

奄美会女性部は奄美会に準じた行事(賀詞交歓会、渋谷・鹿児島おはら祭、総会・懇親会など)に参加しあでやかな踊りと衣装(大島紬等)を披露して東京における奄美広告塔として大活躍しています。 渋谷・鹿児島おはら祭では2年連続の受賞をするなど、踊りにますます磨きがかかっています。

えぐさゆうこ

元南海放送アナウンサー、歌手。フリーアナウンサー転身後もTBS・日本テレビなどのナレーション、イベントなどを担当。 南海放送在曲中に奄美大島のシマ唄に心酔するようになり、尊敬する唄者に出会ったことで人生が変わる経験をする。奄美のシマ唄の歴史や唄掛け、方言などの奥深さを知る。自分のルーツ探しと南西諸島の唄を学ぶため、父の生まれ故郷・屋久島の唄の現地調査を江草啓太とともに行った。語りと唄を織り交ぜた舞台は「圧倒的な表現」(スポニチ)と評される。

笑福亭竹三

平成21年笑福亭鶴光に入門。翌22年東京の落語芸術協会にて楽屋入りし明光(あこう)となる。4年間の前座修行の後平成26年竹三(ちくざ)で二ツ目昇進。2016年1月30~31日の2日間、文化庁企画で奄美寄席を行う。主な活動は東京の寄席ですが今後も積極的に島での公演・交流等を通して奄美のアピールをしたいと考えております。